

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年5月15日
【四半期会計期間】	第52期第3四半期（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	株式会社フルヤ金属
【英訳名】	FURUYA METAL CO., LTD
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 古屋 堯民
【本店の所在の場所】	東京都豊島区南大塚二丁目37番5号
【電話番号】	03 - 5977 - 3377
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 榊田 裕之
【最寄りの連絡場所】	東京都豊島区南大塚二丁目37番5号
【電話番号】	03 - 5977 - 3377
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 榊田 裕之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第3四半期 連結累計期間	第52期 第3四半期 連結累計期間	第51期
会計期間	自2018年7月1日 至2019年3月31日	自2019年7月1日 至2020年3月31日	自2018年7月1日 至2019年6月30日
売上高 (百万円)	17,162	16,485	21,451
経常利益 (百万円)	3,969	2,716	4,484
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	2,438	1,852	2,709
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,430	1,856	2,692
純資産額 (百万円)	13,776	13,749	14,037
総資産額 (百万円)	27,311	32,701	29,793
1株当たり四半期(当期)純 利益金額 (円)	352.84	291.45	402.61
潜在株式調整後1株当たり四 半期(当期)純利益金額 (円)	351.22	289.89	400.71
自己資本比率 (%)	50.1	41.8	46.8

回次	第51期 第3四半期 連結会計期間	第52期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年1月1日 至2019年3月31日	自2020年1月1日 至2020年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	106.04	130.46

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、米国経済や国内設備投資が堅調に推移する一方、米中貿易摩擦などの影響から全体として足踏み状態が続いているなか、中国から感染が拡大した新型コロナウイルスの影響で大きくブレーキがかかりました。

このような経済環境において、国内向けイリジウムルツボの受注は顧客の生産調整の影響を受けましたが、HD向けのルテニウムターゲットの受注回復が鮮明となり、触媒、有機EL向け並びに電極向けの化合物も堅調に推移し、半導体向け温度センサー、銀合金ターゲットの受注も回復いたしました。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で先行きの不透明感は強いものの、取引先の在庫積み増しによる受注増も見られました。

その結果、当第3四半期連結累計期間において、売上高16,485百万円（前年同四半期比3.9%減）、売上総利益4,351百万円（前年同四半期比21.7%減）、営業利益2,662百万円（前年同四半期比32.3%減）、経常利益2,716百万円（前年同四半期比31.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,852百万円（前年同四半期比24.0%減）となりました。

なお、セグメント別の業績は以下のとおりです。

#### [電子]

米国向けのイリジウムルツボやガラス溶解装置向け貴金属製品の受注が堅調に推移したものの、スマートフォンなどのSAWデバイス（必要な周波数信号を取り出すデバイス）に使用されるリチウムタンタレート単結晶育成装置向けのイリジウムルツボの受注が回復に至らなかったことから、売上高3,240百万円（前年同四半期比15.6%増）、売上総利益742百万円（前年同四半期比17.5%減）となりました。

#### [薄膜]

HD向けルテニウムターゲットの受注回復は鮮明となる一方、スマートフォンなどのタッチパネル配線向け銀合金ターゲットの受注も回復傾向を見せ、売上高6,901百万円（前年同四半期比10.0%減）、売上総利益1,970百万円（前年同四半期比21.2%減）となりました。

#### [センサー]

半導体製造装置メーカーからの受注は軟調だったものの、海外半導体メーカーからの受注や高付加価値製品の受注が堅調に推移したことから、売上高1,732百万円（前年同四半期比6.1%増）、売上総利益599百万円（前年同四半期比31.3%増）となりました。

#### [ケミカル]

触媒や有機EL向け及び電極向けの貴金属化合物の受注は堅調だったものの、貴金属原材料の販売や精製受注は伸び悩んだこともあり、売上高4,521百万円（前年同四半期比8.5%減）、売上総利益1,016百万円（前年同四半期比39.2%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は32,701百万円(前連結会計年度末比2,907百万円の増加)、負債は18,952百万円(前連結会計年度末比3,195百万円の増加)、純資産は13,749百万円(前連結会計年度末比288百万円の減少)となりました。

流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産残高は21,498百万円となり、前連結会計年度末比1,597百万円増加いたしました。これは現金及び預金が693百万円、たな卸資産が721百万円それぞれ増加したことが主な要因であります。

固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産残高は11,202百万円となり、前連結会計年度末比1,310百万円増加いたしました。これは有形固定資産が1,452百万円増加したことが主な要因であります。

流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債残高は8,527百万円となり、前連結会計年度末比5,027百万円減少いたしました。これは買掛金が220百万円、短期借入金が3,700百万円、未払法人税等が960百万円それぞれ減少したことが主な要因であります。

固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債残高は10,424百万円となり、前連結会計年度末比8,223百万円増加いたしました。これは長期借入金が8,132百万円増加したことが主な要因であります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産残高は13,749百万円となり、前連結会計年度末比288百万円減少いたしました。これは利益剰余金が1,420百万円増加しましたが、自己株式が1,705百万円増加したことが主な要因であります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は339百万円です。

また、当第3四半期連結累計期間における研究開発活動において重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,671,520
計	16,671,520

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年5月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,265,212	7,265,212	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	7,265,212	7,265,212	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2020年1月1日～ 2020年3月31日	-	7,265,212	-	5,445	-	5,414

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

( 6 ) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,528,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,734,600	57,346	-
単元未満株式	普通株式 1,712	-	-
発行済株式総数	7,265,212	-	-
総株主の議決権	-	57,346	-

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社フルヤ金属	東京都豊島区南大塚二丁目37番5号	1,528,900	-	1,528,900	21.04
計	-	1,528,900	-	1,528,900	21.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年7月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,748	2,442
受取手形及び売掛金	2,499	2,444
商品及び製品	539	844
仕掛品	1,590	1,485
原材料及び貯蔵品	12,841	13,363
未収消費税等	595	750
その他	86	167
流動資産合計	19,901	21,498
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	2,294	2,228
機械装置及び運搬具(純額)	3,643	4,739
土地	1,724	1,727
リース資産(純額)	66	127
建設仮勘定	1,193	1,551
その他(純額)	47	48
有形固定資産合計	8,970	10,422
無形固定資産	52	49
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	28	25
繰延税金資産	735	595
貸倒引当金	1	1
その他	107	110
投資その他の資産合計	870	730
固定資産合計	9,892	11,202
資産合計	29,793	32,701



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	2,329	2,109
短期借入金	8,000	4,300
未払法人税等	1,235	274
賞与引当金	267	117
役員賞与引当金	65	-
1年内返済予定の長期借入金	755	870
その他	902	856
流動負債合計	13,555	8,527
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,217	9,350
退職給付に係る負債	504	546
資産除去債務	25	25
その他	453	502
固定負債合計	2,201	10,424
負債合計	15,756	18,952
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	5,445	5,445
資本剰余金	5,414	5,414
利益剰余金	8,647	10,068
自己株式	5,552	7,257
株主資本合計	13,954	13,670
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	3	0
為替換算調整勘定	12	13
その他の包括利益累計額合計	9	12
新株予約権	92	92
純資産合計	14,037	13,749
負債純資産合計	29,793	32,701

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
売上高	17,162	16,485
売上原価	11,606	12,133
売上総利益	5,556	4,351
販売費及び一般管理費	1,622	1,689
営業利益	3,933	2,662
営業外収益		
受取利息	0	0
デリバティブ評価益	4	-
為替差益	19	69
助成金収入	26	19
その他	4	15
営業外収益合計	55	104
営業外費用		
支払利息	13	46
その他	5	4
営業外費用合計	19	50
経常利益	3,969	2,716
税金等調整前四半期純利益	3,969	2,716
法人税、住民税及び事業税	1,265	724
法人税等調整額	265	139
法人税等合計	1,530	864
四半期純利益	2,438	1,852
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,438	1,852

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
四半期純利益	2,438	1,852
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10	9
為替換算調整勘定	2	5
その他の包括利益合計	7	4
四半期包括利益	2,430	1,856
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,430	1,856
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(追加情報)

(たな卸資産の固定資産振替)

当社グループは、当第3四半期連結累計期間において、保有目的の変更により、たな卸資産の一部を有形固定資産に振替えております。これにより「原材料及び貯蔵品」が491百万円減少し、「機械装置及び運搬具」が491百万円増加しております。また、「仕掛品」が158百万円減少し、「建設仮勘定」が158百万円増加しております。さらに、「商品及び製品」が495百万円減少し、「機械装置及び運搬具」が495百万円増加しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

債権流動化に伴う買戻し義務

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
債権流動化に伴う買戻し義務	392百万円	900百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
減価償却費	314百万円	337百万円

(株主資本等関係)

1. 配当に関する事項

前第3四半期連結累計期間(自2018年7月1日 至2019年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年9月27日 定時株主総会	普通株式	718	100	2018年6月30日	2018年9月28日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2018年11月19日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,000,000株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が5,300百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が5,552百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自2019年7月1日 至2020年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年9月26日 定時株主総会	普通株式	432	70	2019年6月30日	2019年9月27日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2019年9月9日開催の取締役会決議に基づき、自己株式452,200株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が1,729百万円増加しました。また、2019年9月26日開催の株主総会決議に基づく同日開催の取締役会決議により、譲渡制限付株式報酬としての自己株式6,900株の処分の実施を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が25百万円減少しました。よって当第3四半期連結会計期間末において自己株式が7,257百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計 (注2)
	電子	薄膜	センサー	ケミカル	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,803	7,665	1,632	4,938	17,040	122	17,162
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,803	7,665	1,632	4,938	17,040	122	17,162
セグメント利益	900	2,501	456	1,671	5,529	26	5,556

(注1)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、仕入製品の販売等であります。

(注2)セグメント利益の合計額は、当第3四半期連結累計期間損益計算書の売上総利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計 (注2)
	電子	薄膜	センサー	ケミカル	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,240	6,901	1,732	4,521	16,395	89	16,485
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	3,240	6,901	1,732	4,521	16,395	89	16,485
セグメント利益	742	1,970	599	1,016	4,328	22	4,351

(注1)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、仕入製品の販売等であります。

(注2)セグメント利益の合計額は、当第3四半期連結累計期間損益計算書の売上総利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	352円84銭	291円45銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	2,438	1,852
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	2,438	1,852
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,911	6,356
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	351円22銭	289円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	2,438	1,852
普通株式増加数(千株)	21	34
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜 在株式で、前連結会計年度末から重要な変動が あったものの概要	-	-

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年5月13日

株式会社フルヤ金属

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 藤本 浩巳

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 秋元 宏樹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フルヤ金属の2019年7月1日から2020年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年7月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フルヤ金属及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。